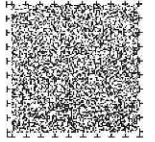




衛生管理された工場内で、かつおパックの袋詰め作業を行う訓練生たち

ありが

ヒューマン ドキュメント



社会福祉法人 敬和会 知覧育成園・障害者自立支援センターけいわ
まつく ぼ かず とし

【松久保 和俊】さん 南九州市

父と二人三脚で始めた 知的障害者援護施設

「この知覧に、障害を持つ人たちが働けるような福祉施設をつくりたい。そんな思いを機に、現在6つの事業所を運営する『社会福祉法人 敬和会 専務理事の松久保和俊さん。この思いは理事長でもある父、秀徳さんの悲願でもあり、平成5年に開所。『知覧育成園』と名付け、自立と一般就労を目指すために必要な訓練を行う知的障害者援護施設として、入所30人、通所30人から出発した。

南薩は川辺仏壇で古くから知られていることもあり、作業種目として始めたのは仏壇の製造。隣地の仏壇工場の協力を得て次第に生産量と技術がアップし軌道に乗っていった。しかし不景気の波が押し寄せ、中国から安い仏壇が入るようになったことなどから仏壇工場は倒産。そのことを聞いたある建設会社の会長さんが、工場の土地と建物を買取り寄付したいと後押ししてくれたこともあり、敬和会の福祉工場として再出発した。「多くの人たちに

恵まれました。平成19年には新しい法律も始まりつつあったので、もう一度見直すためにプロジェクトチームを結成。昨年からキクラゲ栽培も始め、新たな製造計画が進んでいます」と、これまでの感謝と意気込みを話す。

「楽しく働いて、安定した生活 それが私たちのサービス

松久保さんが掲げた課題は地域生活支援、就労支援、高齢者対策などの充実。平成19年度には障害者自立支援センター（南九州市と鹿児島市）、平成20年度には福祉工場を制度移行した障害者就労支援センター（南九州市）を次々とスタートさせた。

主な作業種目は地元有名メーカーとタイアップした海産物や乾物などの袋詰め作業など。昨年から始めたキクラゲ栽培・販売に続き、昨年12月から建設を進めてきた「自社菌床製造工場」に期待を込める。

キノコには「菌床ブロック作り、培養、栽培」の3つの工程がある。県外から10万菌床を仕入れてきたため、コスト削減と品質の確保などを考え工場建設に踏み切った。「キクラゲはこれまでほとんどが県外や輸入物。地産地消で安心安全なものを食べてもらいたいと思ったのがきっかけです。シイタケ、ナメコなど徐々に増やしていきたい。摘みたてキクラゲの生

社会福祉法人「敬和会」専務理事の松久保和俊さん



収穫したてのキクラゲをスライスして、選別作業を行う



「鹿児島産キクラゲ」として、袋詰めやパックにして出荷販売



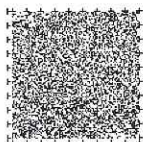
菌床ブロックから次々と芽を出すキクラゲ（鹿児島市坂之上の障害者自立支援センターハーマニー）

のプリプリ感も味わってほしいです」。出荷は県内7カ所のスーパーや道の駅イオン、Aコープなど。4月からはこれまで以上の採算を見込んでいる。「自社で作った玉（菌床）も地域に提供したいと思っています。私たちは福祉屋。利用者の方が楽しく働いて安定した生活を送ってくれたらそれです。この事業で少しでも高い工賃をあげられるようにしてさしあげたい。これが私たちのサービス。今後地域で働く障害のある方を支援していきたい」。そう話してくれた。

緑豊かな南九州市の広大な敷地、ここから知覧育成園がスタートした



社会福祉法人 敬和会 知覧育成園・障害者自立支援センターけいわ
〒897-0302
鹿児島県南九州市知覧町郡9047-1
TEL0993-83-4800 FAX0993-83-4801
ホームページ <http://www.ikuseien.jp>
Eメール info@ikuseien.jp



バドミントンは 仲間づくりの楽しさ

日ごろからバドミントンに親しみ活動を行っている障害者の人々を対象に、個々の実力を試す場として開催された「県障害者自立交流センターバドミントン大会」。2月6日、ハートピアかごしまの体育館に県内から78人の選手が集まりました。クラス分けは1チームにつき障害者3人以上を含む健常者とのミックスで6人×8人、10チームの団体戦がスタートしました。

HBC(ハートピアバドミントンクラブ)自主グループで代表を務める鮫嶋浩さん(47歳)も参加選手の一人。HBCは2チームに分かれ、鮫嶋さんが率いるチームは鮫の字にちなんで「チームシャーク」という名で試合に臨みます。「この大会は、肢体不自由、聴覚障害、知的障害、精神障害、健常者の人たちが一緒に参加します。その中でも練習によく来るメンバーを中心に集まりました。わきあいあいとして楽しいですよ。いろんな人たちと知り合い、仲間をつくるのが一番うれしく、いっしょと目を輝かせて話します。」

ハートピアかごしま 鹿児島県障害者自立交流センター HBC(ハートピアバドミントンクラブ) 自主グループ



1位2位ともに賞を獲得したHBC(ハートピアバドミントンクラブ)自主グループのメンバー



大会直前、ユーモアたっぷりに意気込みを話すHBC自主グループ代表の鮫嶋浩さん



試合は障害者と健常者のミックスで行われた。1チーム3組ダブルスで対戦



鹿児島県障害者自立交流センター
〒890-0021
鹿児島県鹿児島市小野1-1-1号 ハートピアかごしま3F
<http://www.heartpiakagoshima.jp/index.html>
mail:heartsyougai@heartpiakagoshima.jp
電話:099-218-4333
FAX:099-220-5420
開館時間:9:00~21:00 (グラウンドは9:00~17:00)
※施設使用料が必要(詳しくは問い合わせを)
休館日:日曜日、年末年始、その他臨時休館など

「自分もできる」ということを実感してほしい」

鮫嶋さんは、ハートピアかごしまのバドミントン教室がなくなるといって平成13年、同じ障害を持つ仲間たちや健常者たちとHBCを立ち上げました。「代表を務めるようになって10年になります。初めはルールが分からなくて意見をまとめるのがとても大変でした。2年間のブランクはありますが、今ではみんながサポートしてくれますよ。これまで一緒に楽しく練習してこれたことが気持ちを一つに出来ているんだなと思います」。

きょうの調子について聞いてみると、「昨日練習しすぎて? 調子がでるかどうか(笑)」とユーモアもたっぷり。試合は、コート4面使用し1チーム3組ダブルスで対戦。試合結果は1位「チームシャーク」、2位「チームドラゴン」。どちらもHBCのメンバーが上位を占めました。

「HBCは毎週土曜に3時間練習しています。私も仕事を持ちながら練習してきました。でもきついと思ったことはないですね。ルールは緩和していますから、バドミントンを始めてみたいという方はぜひ参加してください。障害があっても『できる』ということを実感してほしいです。これから私も出来る限り続けていきたいと思っています」。

